

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年8月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 6
4 対日動向	・ ・ ・ 9
5 国境地域等での活動	・ ・ ・ 15
6 軍事交流	・ ・ ・ 18
別紙「南シナ海における 8 月の事象に関する中比の主張」	・ ・ ・ 20
参考文献	・ ・ ・ 22

中国軍事動向月報：2024年8月

2024. 9. 5

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全般

日本に対し、8月26日にY-9情報収集機が長崎県男女群島沖で領空侵犯を、31日にシュパン級測量艦が鹿児島県口永良部島西で領海侵犯を行った。中国軍機としての我が国に対する領空侵犯は初確認である。領空侵犯が故意か過失かは不明であるが、習近平総書記兼中央軍委主席が7月30日に指示した「国境・海空域防衛力整備」強化に従い、新たな手段をもって対日情報収集を強化した可能性がある。

また、台湾に対しても海警船以外の中国公務船による台湾周辺海域の活動常態化や海空協同戦備パトロール時の無人機による台湾本島周回飛行等、新たな法執行活動や情報収集を開始・強化させている。

南シナ海においてもフィリピン（以下、比）への対決姿勢を強めており、中国海警船が比公船の活動を実力で阻止しようとした結果の衝突や比機へのフレア発射が繰り返された。

これら台湾・比への強硬姿勢も「国境・海空域防衛力整備」強化の一環である可能性がある。

一方、比を除くASEAN各国やアフリカ諸国との共同演習や軍事交流を深化させ、中国の影響力の強化及び武器輸出への下地作りを行った。米国に対しては訪中したサリバン米大統領補佐官と軍人として軍のトップである張又侠・中央軍事委員会副主席が会談する等、現時点では米国との衝突を避け対話を望む姿勢を示した。

2 各軍等

(1) 陸軍

○ 第71集団軍の海上プラットフォーム上でのヘリ再補給訓練

8月某日、東部戦区第71集団軍陸航旅団は海上プラットフォーム上で、Z-20、Z-19ヘリによるエンジンをかけたままでの給油・弾薬再装填訓練を実施した。同旅団にとっては初の海上補給訓練。

同旅団の隊員は「戦時においては海岸沿いの応急ヘリポートに帰投するより、海上中継プラットフォーム上で補給することで大幅に時間を短縮し、再出撃効率が上がる。また、海上プラットフォームが常に移動することにより敵からの防御だけでなく、作戦空域をより前方に展開させることが可能」と述べた¹⁾。

海上プラットフォームへ着陸するZ-20輸送ヘリ



(資料源：CCTV20240824)

エンジンをかけたまま弾薬再装填するZ-19攻撃ヘリ



(資料源：CCTV20240824)

【コメント】

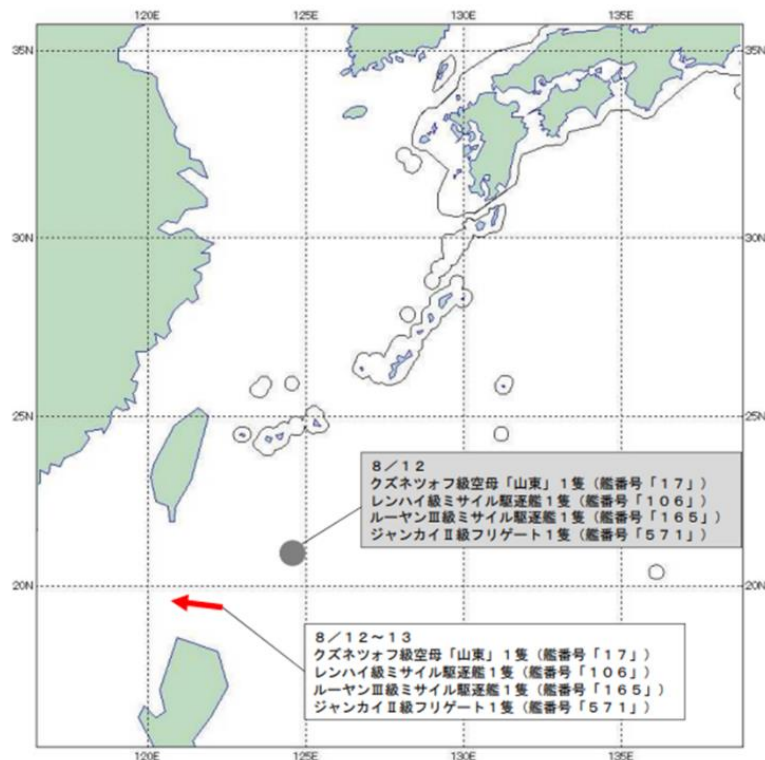
第71集団軍は台湾侵攻作戦を担当する東部戦区の3つの集団軍のうちの1つであるが、水陸両用旅団を有していないため、海岸堡設定後の第2波の任務等を担当する。

今回の訓練は、台湾侵攻時にヘリ部隊を台湾海峡上のプラットフォームで迅速に再補給し再出撃させるための訓練である。東部戦区ではこれまでRORO船を利用して着上陸部隊を輸送する訓練を繰り返し実施しているが、部隊輸送だけでなくヘリ補給にも使用する等、民間船舶の活用が拡大している。

(2) 海軍

○ 空母「山東」の太平洋上での訓練

8月12日、クズネツォフ級空母「山東」1隻、レンハイ級ミサイル駆逐艦1隻、ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦1隻及びジャンカイⅡフリゲート1隻の計4隻が、宮古島及び与那国島南方で訓練を実施、「山東」の艦載戦闘機及び艦載ヘリによるもの約20回の発着艦を実施、その後、12～13日に南シナ海へ向けて航行した²。



【コメント】

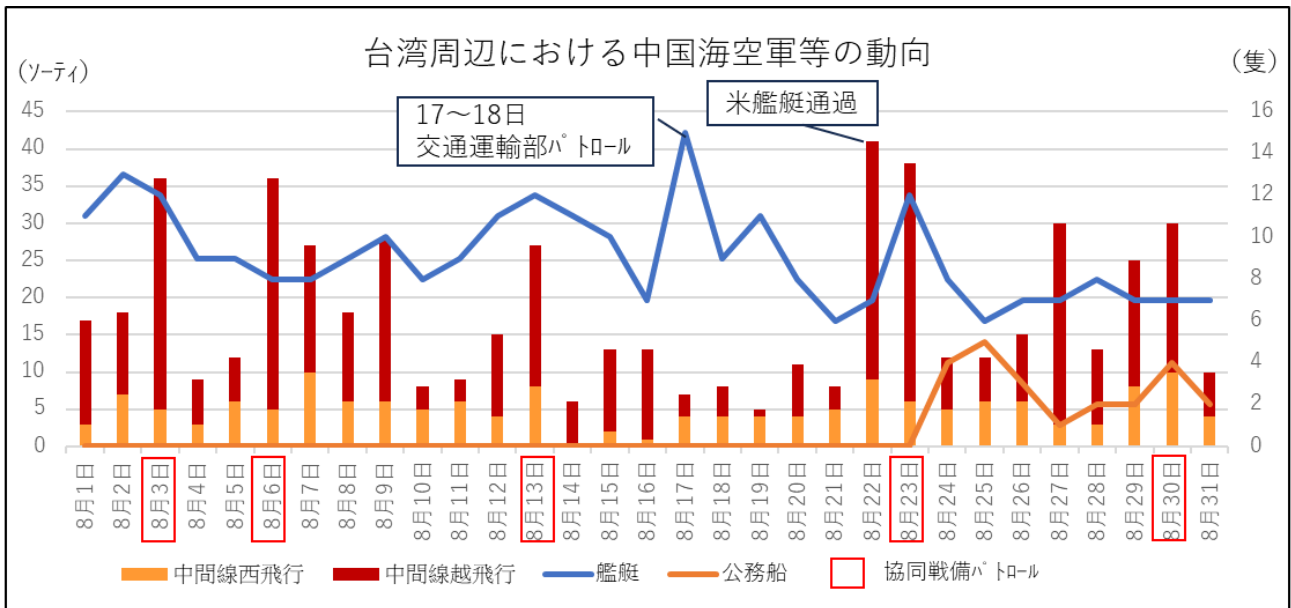
「山東」は7月9～18日に引き続き本年2回目の太平洋上での訓練。

7月訓練時の10日間発着艦420回に比し、2日間発着艦20回と小規模ではあったが、訓練海域は前回の宮古島南方に比し、今回はやや台湾に接近した与那国南方で実施された。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

8月は中国軍機延べソーター557 (内、中間線超えが延べ399)、中国艦艇延べ282隻、公務船延べ23隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は41ソーター、最大中間線超え32ソーター、海空協同戦備パトロールは5回であった。

8月22日、米駆逐艦が台湾海峡を通過、これに対して東部戦区報道官は「22日、台湾海峡を米ミサイル駆逐艦ジョンソンが台湾海峡を通過、東部戦区は海空兵力をもって通航の全行程を監視警戒、法に基づいて対処」と発言した³。

○ 交通運輸部「海巡」等による台湾海峡パトロール

8月17～18日、交通運輸部福建海事局・東海救助局が台湾海峡海上パトロールを実施。海巡06、海巡0802、東海救115の3隻が参加し、30.5時間、全413海里、海峡中間地点東2海里的の範囲内を航行。これまでのパトロール範囲を拡大した⁴。

これに対し、台湾海巡署は18日、「中国公務船3隻が17日1225から短時間中間線を3.2海里超え、その後中国方向へ航行したが、台湾の制限水域内には進入しなかった。台湾側は全行程を監視」と発表⁵。

台湾海峡をパトロールする中国公務船



(2) 金門周辺海域での動向

○ 金門周辺海域でのパトロール

中国海警局は「8月21日、福建海警が金門周辺海域で常態化法執行パトロールを実施。8月以降、福建海警は編隊を組織し金門での法執行パトロールを強化、特に禁漁明けの漁船増加に対応」と公表⁶。

台湾海巡署は「21日 0850～1100 と 1450～1700 の 2 回、中国海警「14515」、「14607」、「14608」、「14504」の 4 隻が復興嶼、翟山、料羅及び北碇島南方の 4 方向から制限水域に進入し、2 時間 10 分航行後に退出した」と公表⁷。

【コメント】

金門周辺海域では海警局による法執行パトロールを継続する一方、台湾海峡では交通運輸部がパトロールの海域を拡大、24日以降、最大5隻の公務船が恒常的に確認されるようになった。

公務船の種類は公表されていないが、中国では中国海警局以外にも交通運輸部海事局、自然資源部国家海洋局、農業農村部漁業漁政管理局の公務船が海上法執行任務を有しており、これらの船舶の可能性はある。

中国の海上法執行機関は必要なデータを共有し、海上でも協力しており、今後は海警のみならずこれら行政法執行機関の船舶をもって台湾海峡の内水化を企図している可能性がある。

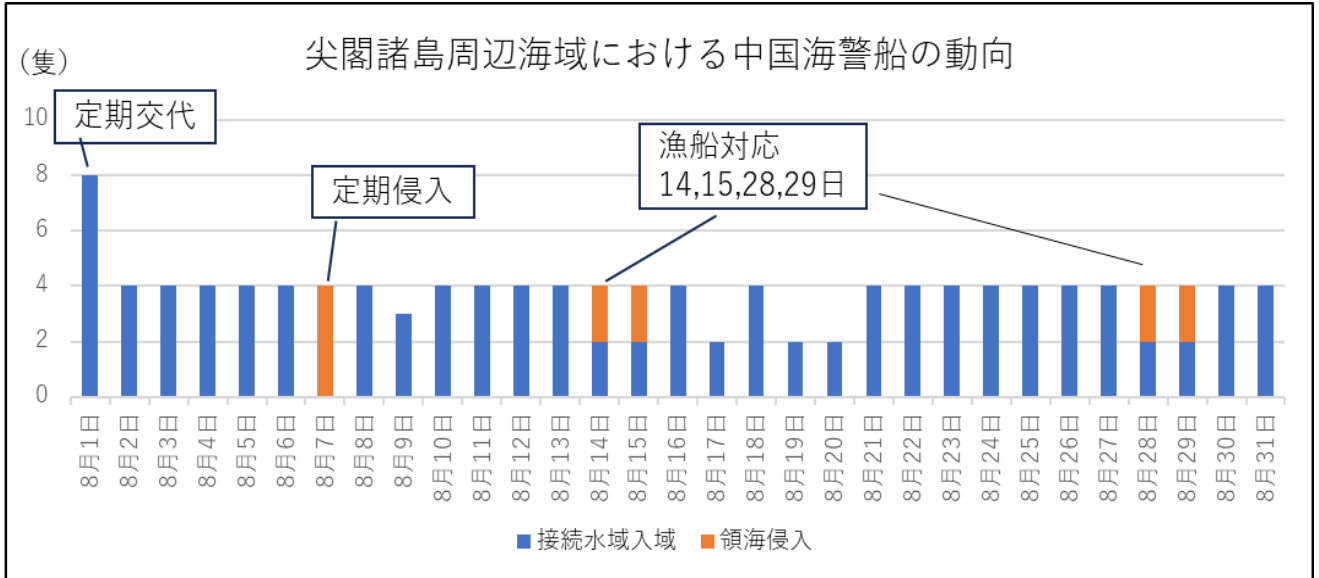
また、8月中旬以降このような新たな試みを開始した理由として、

- ① 8月の禁漁明けに対応した監視強化
 - ② 6月の海警尖閣編隊の砲搭載船4隻態勢に移行による海警船不足を他の公務船で補完
 - ③ 7月30日の習近平による「国境・海空域防衛力整備」強化指示への対応
- が考えられる。②、③の理由であれば今後も公務船の展開が継続する可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

8/28領海侵入時の海警船2隻（赤と黄の△）の位置



注：中国のサイト「港口網」からのキャプチャのため、「釣魚島（中国）」と表記されている

【コメント】

8月上旬の4隻も6月から継続して砲搭載船であり、定期侵入・漁船対応等定例の対応を行った。

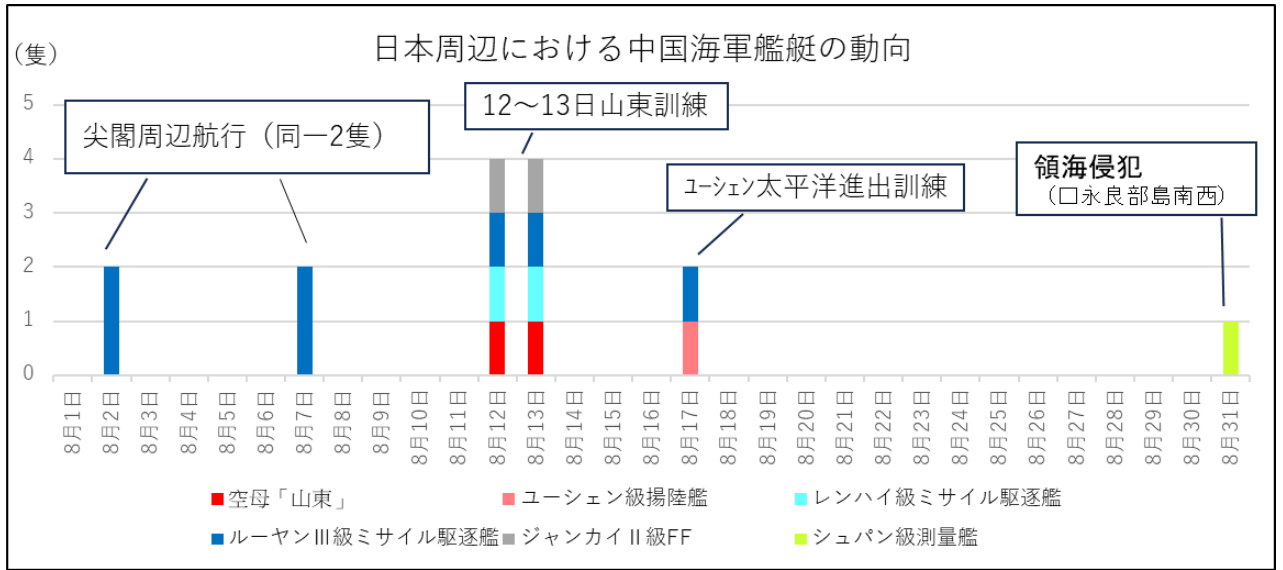
一方、日本漁船対応時の海警局報道官の発言ぶりについては、先月7月11日に初めて「さもなければ中国はあらゆる対抗措置を執る権利を有する」との表現が確認されたが、8月15日の発言ではこの表現が削除され、これまでの「直ちに全ての不法行動を停止するよう促す」の表現に留めた⁸。また、28～29日の漁船対応時の海警局報道官の発言は確認されなかった。

また、8月16日に尖閣諸島周辺海域で禁漁が解禁された。中国海警局はAISの航跡から、8月16日前後には尖閣編隊に加え、第2支隊の2隻（1隻尖閣北西海域パトロール、1隻玉環島待機）をもって中国漁船に対応したと推定され、中国漁船が大量に尖閣諸島接続水域内を航行する等の活動は確認されなかった。

海警局としては8月は南シナ海での比対応を優先し、尖閣正面での対応は定例のものに留めた可能性がある。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海軍の動向



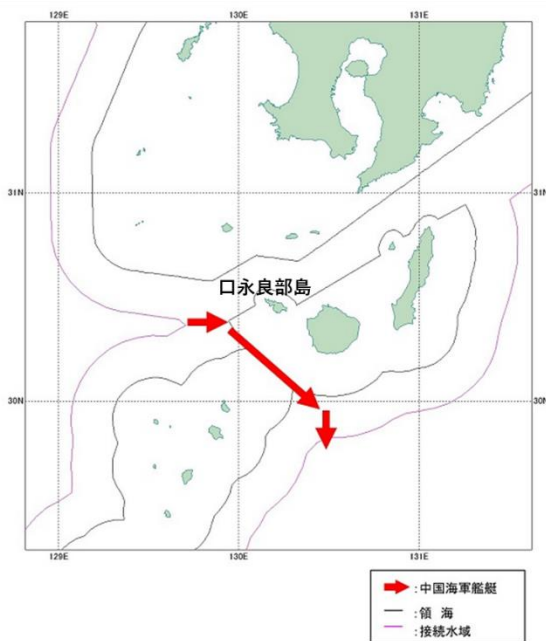
注：8/17 の 2 隻のうち 1 隻はルーヤン級とのみの発表のため、ルーヤン III として計上
 (資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

8月は空母「山東」の訓練等あったものの、中露共同訓練等あった先月延べ 65 隻から減少し、15 隻が確認された。

○ シュパン級測量艦の領海侵犯

31日にシュパン級測量艦1隻(艦番号25)が鹿児島県口永良部島西で0600~0753の間、領海侵犯を行った。測量艦の領海侵犯は2023年9月以来10回目、海軍艦艇としては13回目。

8/31 シュパン級測量艦の航跡

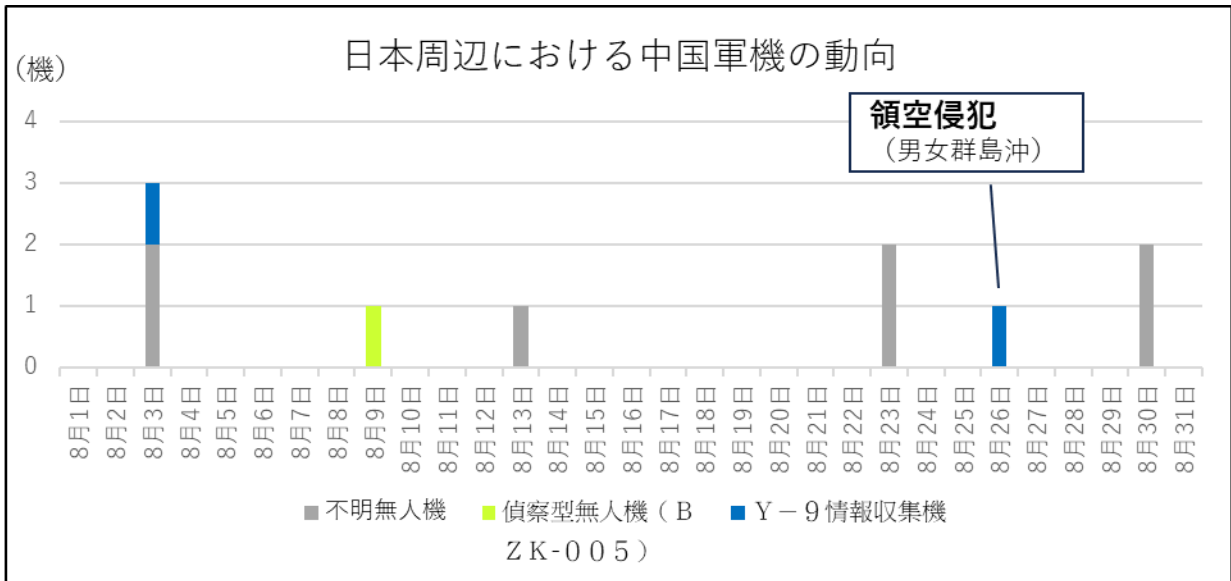


(参考) 艦艇の性能要目等 (出典：JANE'S FIGHTING SHIPS 2023-2024)

艦種	シュパン級測量艦
排水量	5,883トン(満載)
全長、全幅、喫水	129.3×17.0×8.1m
主要兵器	—
機関	ディーゼルエレクトリック×2
速力	17.5ノット
配備数	9隻

(資料源：防衛省20240831)

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国軍機の動向

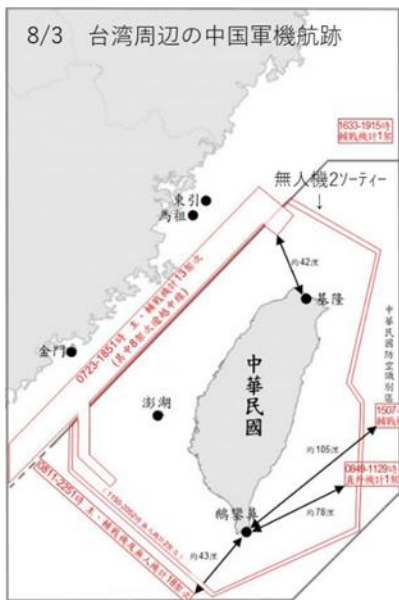


(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

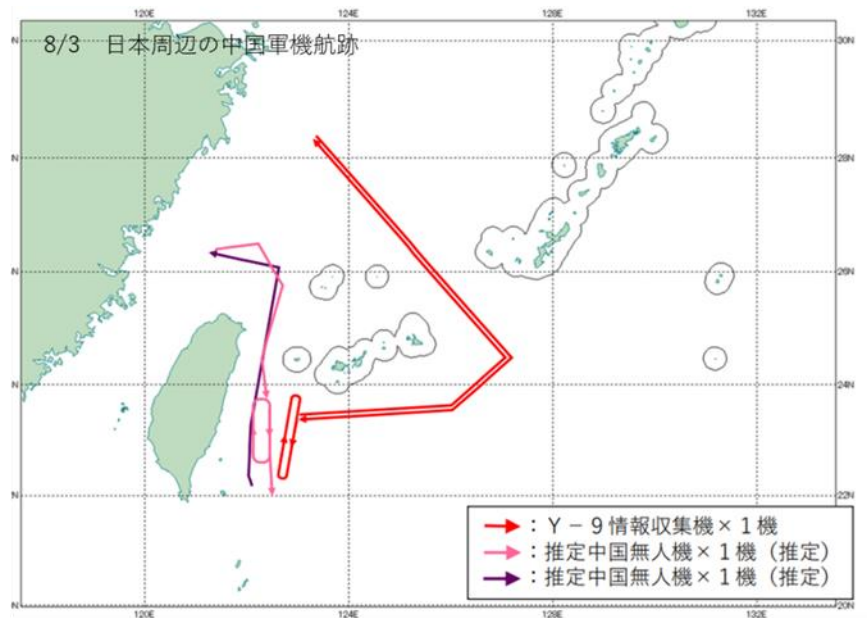
○ Y-9 情報収集機と無人機の台湾周回飛行との連携

3日、Y-9 情報収集機が無人機と共に南西諸島及び台湾東沖で飛行した。

左下図は台湾発表の中国軍機の航跡であるが、3日に中国軍無人機2機が台湾を周回飛行しており、統幕発表の無人機の航跡と一致、同一機と推定。



(資料源：中華民国国防部20240804)

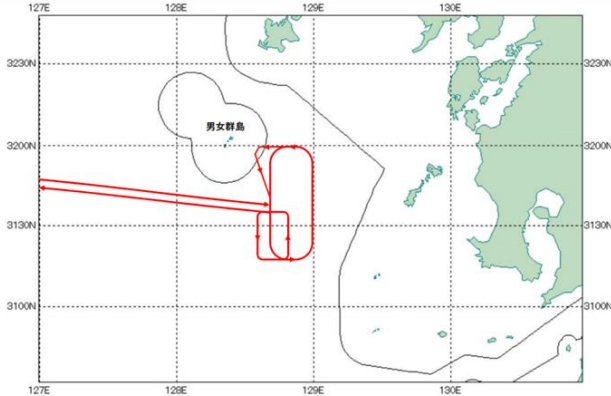


(資料源：統合幕僚監部20240803)

○ 中国軍機による初の領空侵犯

26日、Y-9情報収集機が、1129～1131の間、長崎県男女群島沖で領空侵犯を行った。中国軍機としての領空侵犯は初確認。

8/26 Y-9情報収集機の航跡



(資料源：防衛省20240826)

これに関し、中国国防部報道官は29日の定例記者会見において「我々は関連報道を注視しており、中日両国は外交ルートを通じて連絡を維持している。中国は一貫して各国の主権を尊重しており、この件を過度に解釈しないよう望む」と発言⁹。

【コメント】

1 領空侵犯

中国はこれまでも南西諸島における情報収集を繰り返し実施してきたが、26日には九州西部まで範囲を拡大し、更には軍用機としては初の領海侵犯を行った。故意か過失かは不明であるが、習近平総書記が7月30日に中共中央政治局第16回集団学習で行った「国境・海空域防衛力整備」強化指示に従い、新たな手段をもって対日情報収集を強化し、対日配慮より収集任務を優先させた可能性がある。

(細部は国基研 HP「中国軍機による領空侵犯について」20240830 参照)

2 3日のY-9情報収集機の飛行目的

7月28日～8月7日まで熊本・佐賀・沖縄を含む5県で陸上自衛隊と米海兵隊との共同訓練「レゾリュート・ドラゴン24」が実施されており、米海兵隊の最新式のレーダ「TPS-80」が、7月29日に与那国島に初めて展開した。同機はこれに関連した情報収集もしくは台湾周回飛行を行った無人機と連携した情報収集を行っていた可能性がある。

3 不明無人機の増加

8月は不明無人機が7機確認されたが、いずれも台湾東沖を飛行である。

飛行が確認された3、13、23、30日は中国が台湾周辺において海空協同戦備パトロールを実施した日であり、無人機による台湾周回飛行を行っている。その航跡は上図8/3のように台湾及び日本が公表したものと重なっており、台湾への無人機による情報収集活発化が日本にも影響を与えている。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日比が南シナ海で初の共同訓練 解放軍報 20240808

8月2日に日比が南シナ海で初の共同訓練を実施したが、挑発の意図は明らかだ。日本は情勢を混乱させ利を得ると共に、平和憲法の制限を突破しようとしている¹⁰。

○ 日米拡大抑止強化は地域の平和と安定を破壊 解放軍報 20240815

先日拡大抑止に関する日米閣僚会合が開催されたが、日米拡大抑止強化は地域の緊張を高め、核拡散等の危険を増大させる。日本は核関連物質を大量に保有しており、核のハードルは低い¹¹。

○ 日米拡大抑止閣僚会議に関する質問への国防部報道官発言 中国国防部 20240816

日本は唯一の被爆国でありながら歴史の教訓を汲み取らず、米に迎合している。中国に対し核兵器の使用及び威嚇を行わなければいかなる国家も中国から核兵器の威嚇を受けることはない¹²。

○ 日本の軍事力強化の危険な動向が更に過激に 軍事科学院 解放軍報 20240822

岸田首相が退任予定であるが、岸田政権を顧みるに、日本は不断に戦後体制からの脱却を図り、軍事力の強化を加速する危険な方向に進んだ。これはアジアの隣国や国際社会を憂慮させるもので、高度に警戒すべきである¹³。

○ 日本の殺傷兵器輸出の危険な謀略を警戒 解放軍報 20240829

日本が米国とペトリオットミサイル輸出に合意した。日本は敗戦国として確立した武器輸出三原則を緩和し、殺傷兵器まで輸出することは平和主義の道に背き、地域の緊張を高めている¹⁴。

○ 中国人民に清浄な土地を返却することを促す 国防部定例記者会見 20240829

（第731部隊の清水英男・元隊員が8月13日に「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」参観し謝罪したことに関し）中国は、日本が清水英男氏と同様に歴史に向き合い、真摯に謝罪し、全力で廃棄プロセスを加速させ、早期に中国人民に清浄な土地を返還することを要求する¹⁵。

○ 軍国主義の捲土重来は許さない 国防部定例記者会見 20240829

（木原防衛大臣等が靖国神社を参拝したことに関し）靖国神社は日本軍国主義が発動した侵略戦争の象徴である。日本に侵略の歴史を深く反省し実際の行動をもってアジアの隣国と国際社会の信頼を得よう要求する。我々は軍国主義の捲土重来を決して許さない。¹⁶

【コメント】

8月15日が終戦記念日であったため、第731部隊や靖国参拝を利用した認知戦を展開した。

また、7月28日に拡大抑止に関する日米閣僚会合が開催されたことを受け、日本を非難した。特に、国防部報道官が「中国に対し核兵器の使用及び威嚇を行わなければいかなる国家も中国から核兵器の威嚇を受けることはない」との発言は、日米同盟により米の核を威嚇として日本が使用すると中国が判断すれば、日本は中国の核の威嚇対象となりうるとも解釈できるため、今後の中国の核に関する発言ぶりには注目が必要。

5 国境地域等での活動

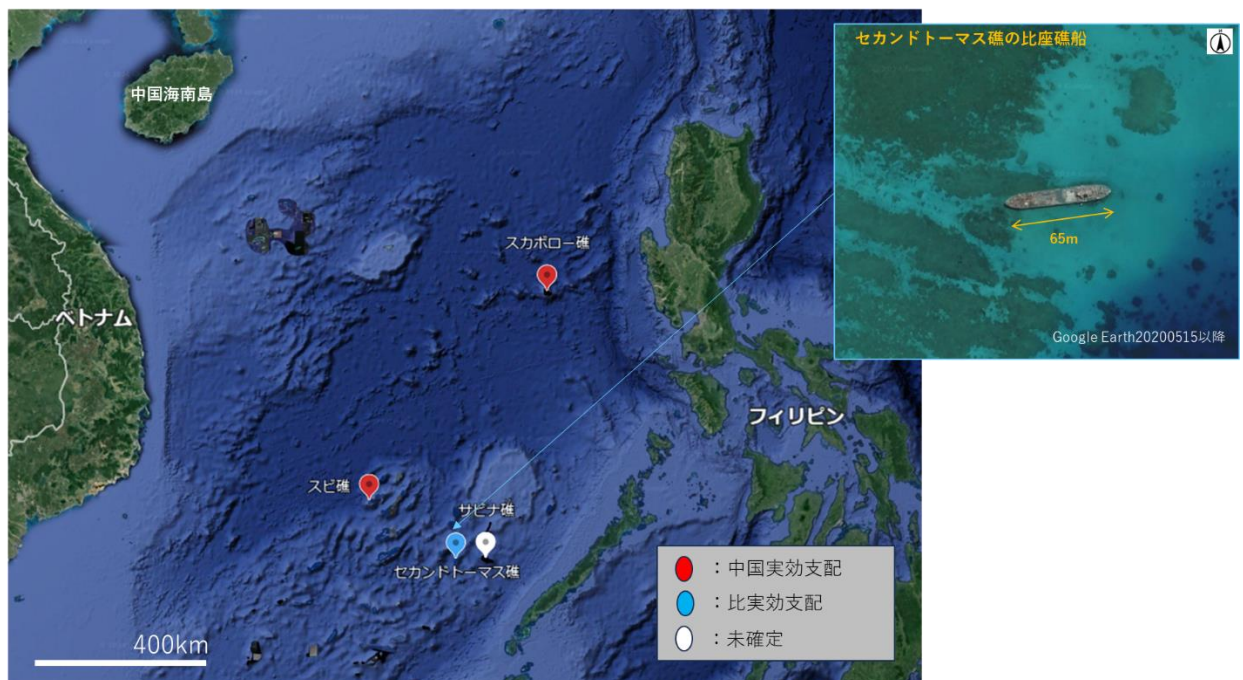
○ 南シナ海での中比間の事象（別紙「南シナ海における 8 月の事象に関する中比の主張」参照）

8 月に南シナ海で発生した中比関連の事象は下表の通り

場所	月日	事象
サビナ礁	8.19	比巡視船 2 隻がスカボロー礁等へ補給のためサビナ礁付近の海域を航行中、中国政府の許可を得ず航行したと主張する中国海警船 1 隻と衝突
	8.25	補給活動中の比漁業水産資源局の船が中国海軍艦艇 1 隻含む海警船等 8 隻に包囲され、海警船から放水を受け、海警船 1 隻と衝突
	8.26	サビナ礁の比巡視船に補給予定の比巡視船 2 隻を中国が海警船 6 隻、海軍艦艇 3 隻、海上民兵船 31 隻の計 40 隻を展開させ阻止
	8.28	比のヘリ 1 機がサビナ礁の比巡視船に物資投下を実施
	8.31	サビナ礁に停泊していた比巡視船が礁内を航行、中国海軍曳航船、海警船、海上民兵が包囲する中、警告した海警船と衝突
セカンドトーマス礁	8.19	比巡視船がセカンドトーマス礁で座礁船に補給。中国は中比の座礁船生活物資補給に関する暫定合意違反と主張
スカボロー礁	8.7	中国南部戦区はスカボロー礁付近の海空域で協同戦備パトロールを実施
	8.8	比空軍機がスカボロー礁上空でパトロール中に、中国軍機 2 機が演習を妨害したとして、比軍機の経路にフレアを投下
	8.19	スカボロー礁近くをパトロールしていた漁業水産資源局のセスナ機に、中国空軍戦闘機が接近し、約 15m の距離で複数回フレアを発射
スビ礁	8.22	パトロール中の比漁業水産資源局のセスナ機に中国がスビ礁からフレアを発射

（資料源：中国海警局、中国軍網、Philippine news agency から抜粋）

各礁の位置関係等



8/19の衝突

中国海警局が公開した映像



(資料源：中国海警局20240819に筆者が追記)

比が公開した巡視船MRRV-4410の被害状況



(資料源：Philippine news agency20240819)

8/31の衝突

中国海警局が公開した映像



(資料源：中国海警局20240831)

比が公開した画像



(資料源：Philippine news agency20240831)

○ 南シナ海での中国の監視活動

8月7～6日、初の米加豪比の海上共同演習が南シナ海の比 EEZ 内で実施された。これに対し中国艦艇3隻（ジャンカイⅡ級フリゲート1隻、ジャンタオ級小型フリゲート2隻）が監視を実施した¹⁷。

米加豪比共同海上演習を監視する中国艦艇（8月7日、加軍ヘリから撮影）



【コメント】

8月にサビナ礁周辺海域で中比公船同士の3回の衝突事案が発生した。

いずれもセカンドトーマス礁での比座礁船またはサビナ礁に長期停泊している比巡視船への補給のために航行している比船とこの阻止を試みる中国海警船との間で発生したものである。

先月7月に中比両国はセカンドトーマス礁で暫定合意に達したと表明したが、比の座礁船への生活物資輸送については、中側への事前通報・許可が必要とする中国と、これを否定する比側で主張が食い違っていた。中国は比の実効支配する海域においても事前通報のない輸送については衝突も辞さない強硬的な手段で阻止をし、比に対して自国の実効支配領域を拡大する企図を有している。

この背景には、米比同盟強化等による南シナ海への西側諸国の関与の増大への懸念が存在する。

8月2日に日・比が、8月7日には米・加・豪・比の海上共同演習が南シナ海で実施され、中国は艦艇を派遣してこれを監視した。

中国にとって南シナ海の実効支配強化及び台湾侵攻時の第1列島線内の領域拒否を達成するためには比と協力する米国等の軍事プレゼンスの阻止が必須である。

今後も比と米国等との関係強化阻止を念頭に、比への圧力を強化していく可能性がある。

6 軍事交流

○ 越海軍艦艇の寄港

8月7日、越海軍艦艇「チャン・クオック・トアン」ミサイルフリゲート艦が湛江に寄港、5日間の友好訪問を開始した¹⁹。

○ コートジボアール独立64周年記念閱兵式に参加

8月7日、コートジボアール国防部の招きにより、ジブチ保障基地から67名による分隊がコートジボアール独立64周年記念閱兵式に参加した²⁰。

行進する中国ジブチ保障基地分隊



○ 中・タンザニア・モザンビーク共同演習「平和団結-2024」

7月29日～8月11日まで、中・タンザニア・モザンビーク共同演習「平和団結-2024」がタンザニア・モザンビークで実施。中国は中部戦区第82集団軍の部隊を主力として海空軍も参加。陸上フェーズでは中・タンザニア軍がタンザニア国内で共同対テロ軍事行動をテーマに訓練。海上フェーズでは中・タンザニア・モザンビーク軍が、アフリカ東部海域で共同海上安全擁護をテーマに訓練した²¹。

海上指揮所での中・タンザニア軍の調整



指揮通信等に関する情報交換を実施する中・タンザニア軍



○ 中タイ空軍共同演習「鷹撃-2024」

8月10～29日、19日間にわたる中タイ共同演習「鷹撃-2024」がタイのウドーンターニー空軍基地で実施。中国からはJ-10C戦闘機・ヘリ等の多種の機体が参加し、異種機対抗等の訓練を実施した。中台空軍の共同演習は7回目²²。

○ 張又俠・中央軍事委員会副主席とサリバン米大統領補佐官の会談

8月29日、張又俠・中央軍事委員会副主席が北京にてサリバン米大統領補佐官（国家安全保障担当）と会談。張副主席は軍事交流の推進や協力の重要性に触れる一方、米台の軍事協力・台湾の武装・台湾に関する虚偽のナラティブの拡散の停止を求めた²³。

【コメント】

比を除くASEAN各国とは、南シナ海領有権問題を有する越も含め軍事交流を継続。また、アフリカ諸国とも共同演習や軍事交流を深化させ、中国の影響力の強化及び武器輸出への下地作りを行っている。

また、コートジボアールの閲兵式に参加した分隊はジブチ保障基地の隊員が同基地から軍用機で移動しており、保障基地がアフリカにおける根拠地として十分に機能していることの証左と言える。

一方、訪中したサリバン米大統領補佐官と軍人として軍のトップである張又俠・中央軍事委員会副主席が会談した。両者の主張は平行線であったものの、現時点では米国との衝突を避け対話を望む姿勢を示した。

南シナ海における8月の事象に関する中比の主張

場所	月日	中国の主張	比の主張
サビナ礁	8.19	比沿岸警備隊巡視船 4410・4411 が中国政府の許可を得ずサビナ礁付近の海域に侵入、3:24（注：中国時間）に 4410 が中国側の複数に渡る警告を無視し、プロでない危険なやり方で故意に海警 21551 に衝突させた	比巡視船 2 隻がスカボロー礁及びナンシャン島（注：比は Patag and Lawak Islands と呼称）へ補給のための航行中、中国海警船による不法かつ攻撃的な航行により損傷を受けた。MRRV-4411 は 19 日 3:24、サビナ礁南東 23.01 海里で海警 3104 に衝突されデッキに直径 5 インチの穴が発生。MRRV-4410 は 3:40、サビナ礁南東 21.3 海里で海警 21551 に 2 回衝突され軽微な構造的損傷を受けた。
	8.25	比船 3002 が中国側の複数に渡る警告を無視し、サビナ礁付近の海域に侵入し、危険な接近を行い、故意に正常な法執行を行っている海警 21551 に衝突させた	漁船に食料や燃料を補給する活動にあっていた漁業水産資源局の船 MMOV-3002 がハーフムーン礁からサビナ礁への航行中、8 隻の中国船から妨害を受けた。同船は中国海軍艦艇 626 と複数の海警船に包囲され、海警船から放水を受けエンジンが故障、更に海警 21551 から衝突された。
	8.26		サビナ礁の比巡視船 BRP テレサ マグバナアに人道的な補給を行う予定の比巡視船 2 隻が中国に阻止された。中国は海警船 6 隻、海軍艦艇 3 隻、海上民兵船 31 隻の計 40 隻を展開させた
	8.28	8 月 28 日、比のヘリ H-145 型ヘリ 1 機がサビナ礁の比巡視船 9701 に物資投下を実施した。中国は全行程を監視しており、法に基づき処理を実施した	
	8.31	0802、サビナ礁に不法に停泊している比巡視船 9701 が礁内を航行する	中国海軍の曳航艇 175 及び 185、海警 4301 及び 3104、海上民兵が包囲する

		という挑発行動を採ったため、海警 5205 が警告を実施。1206, 比巡視船 9701 がプロでない危険なやり方で故意に海警 5205 に衝突	中、海警 5205 が比最大の巡視船である MRRV-9701 に繰り返し衝突、船は深刻な被害を被ったものの、怪我人はなし
セカンドトーマス礁	8.19	6 時頃（注：中国時間）、比巡視船 4410 はサビナ礁で中国に阻止された後、警告を無視しセカンドトーマス礁近海域に侵入、これは中比の座礁船生活物資補給に関する暫定合意違反である	
スカボロー礁	8.7	南部戦区はスカボロー礁付近の海空域で協同戦備パトロールを実施し、戦区部隊の偵察・快速機動・協同打撃能力を検証した。全ての南シナ海での平和と安定を破壊する軍事行動を掌握している	
	8.8	8 月 8 日、比空軍 NC-212 型機が中国の複数の警告を顧みずスカボロー礁空域に侵入し中国側の演習を妨害。南部戦区海空軍は規則に基づき、追跡監視・離脱警告を実施	8 月 8 日、比空軍 NC-212i 機がスカボロー礁上空で定期パトロール中に、中国軍機 2 機が危険な飛行で接近し、比軍機の経路にフレアを投下。比軍機は基地に帰還し負傷者はなし。乗員に脅威を与え、比の合法的な飛行を妨害した
	8.19		スカボロー礁近くをパトロールしていた漁業水産資源局のセスナ機 208B Grand Caravan に、中国空軍戦闘機 63270 が危険な飛行で接近し、約 15m の距離で複数回フレアを発射した。
スビ礁	8.22		比 EEZ と領海上空をパトロール中の漁業水産資源局のセスナ機に中国が埋め立てたスビ礁からフレアを発射された。同機は 8.19 にもフレアを投下された

(資料源：中国海警局、中国軍網、Philippine news agency から抜粋)

【参考文献】

- 1 環球網 20240824
<https://mil.huanqiu.com/article/4J9b1kJ9jIi>
- 2 統合幕僚監部 20240814
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20240814_01.pdf
- 3 中国国防部 20240822
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16332887.html>
- 4 玉渊谭天 20240818
https://mp.weixin.qq.com/s/ijkK03l_PDYLJy2qgXdLeg
- 5 CNA20240818
<https://www.cna.com.tw/news/acn/202408180181.aspx>
- 6 海警 weibo20240821
<https://weibo.com/u/6586732953?lpage=profileRecom>
- 7 海洋委员会海巡署 20240821
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=161301&ctNode=650&mp=999>
- 8 中国海警局 20240815
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202408/t20240815_2417.html
- 9 中国国防部 20240829
http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfyrlhzb/lxjzhzb/2024njzh/2024n8y_247064/16334352.html
- 10 解放軍報 20240808
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20240808/0eef0fe7e78cbd88f60435a27afbab29.pdf>
- 11 解放軍報 20240815
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20240815/ef19abe69aa989ffff7a214436f84be6.pdf>
- 12 中国国防部 20240816
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16331684.html
- 13 解放軍報 20240822
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-08-22&paperNumber=11&articleid=938076
- 14 解放軍報 20240829
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-08-29&paperNumber=11&articleid=938543
- 15、16 中国国防部 20240829
http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfyrlhzb/lxjzhzb/2024njzh/2024n8y_247064/16334352.html
- 17 US NAVAI INSTITUTE20240807
<https://news.usni.org/2024/08/07/allied-navies-chinese-warships-hold-competing-drills-off-the-philippines>

- 18 中国軍網 20240827
http://www.81.cn/yw_208727/16333681.html
- 19 解放軍報 20240808
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfb&paperDate=2024-08-08&paperNumber=04&articleid=937038
- 20 環球網 20240808
<https://mil.huanqiu.com/article/4IwMazZ9ZrZ>
- 21 中国軍網 20240811
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfb&paperDate=2024-08-13&paperNumber=04&articleid=937443
- 22 中国軍網 20240830
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfb&paperDate=2024-08-30&paperNumber=04&articleid=938634
- 23 中国国防部 20240829
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16334272.html>

中国軍事動向月報 2024年8月

2024年9月5日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。